

VI-21 観光物産館『アスパム』前の 景観設計について

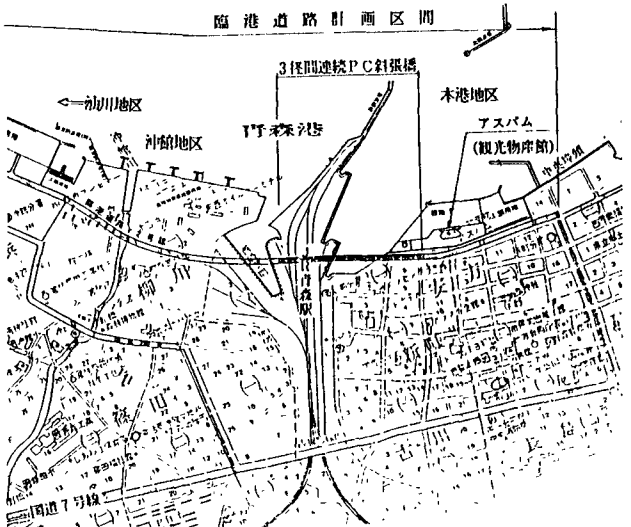
青森県 土木部 港湾課 奈良 豊規
J R東日本 東北工事事務所 斎藤 俊弘
J R東日本 東北工事事務所 ○清水 登

1. まえがき

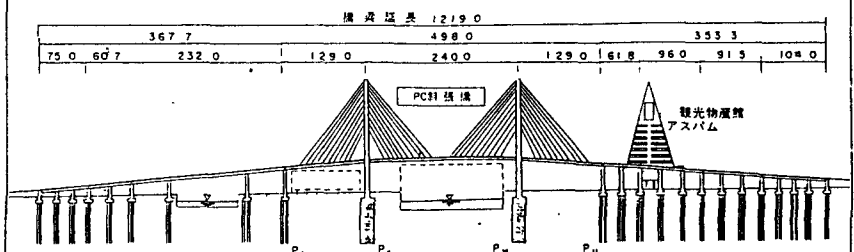
青森港はJ R青森駅を中心にして東西に分割された形で発達しながら、永い間物流の拠点として産業の基盤を支えて来ました。港の東西への拡大に伴って水際線が港湾施設で取り囲まれた結果、市民と海との触れ合いの場を奪うことになってしまいました。又青函トンネルの開通に伴って港の中心的存在であった青函連絡船も廃止になったため利用価値の低下したこれらの地区を21世紀に向け県都青森を支える施設と位置づけ、物流、生産、生活にかかる諸機能の調和と青森港の個性を生かした豊かで潤いのある港湾空間の創造を目指して「ポートルネッサンス21計画」による港湾再開発が進められている。

その概要は既存の水際線を利用した親水空間的公園、旧青函連絡船「八甲田丸」を活用した港湾文化交流施設、観光物産館アスパム周辺の緑地公園、更には人工地盤方式による克雪型未来都市等である。これは限られた資源と空間をより有効に活用し、地域の活性化、環境、景観の向上を図り、人間主体とした環境整備に向けてウォーターフロント型アメニティー空間の創出の場を目指すものであります。現在安方地区の緑地化がすすんでいるほか、文化交流施設「八甲田丸」もオープンしている。また東西港湾施設の一体化と物流の円滑化及び市内交通の渋滞の解消を図るため青森ベイブリッジを建設中であるが、全長1219m、メインとなるPC斜張橋部分は498m、主塔が80mあり、このように橋自体が巨大であるため地域景観を向上させるように配慮した構造となっているものの、観光物産館「アスパム」の前を横断するため前の景観を阻害することになってしまいます。本報告はその対策として青森ベイブリッジの関連部分のデザインと合わせてアスパム前ゲートタワーのデザインをおこなったものである。

位置平面図



橋梁区間側面図



2. デザイン計画

デザインを行うに先立ってイメージ調査を行い、青森市の市章である星と未来に向かって発展する青森をハイテクイメージの二点をもとに、青森港の歴史・伝統を継承し象徴するもので、かつ青森市の目指す近代中核都市像の将来景観にマッチするようなデザインとする。

基 本 方 針	期 待 さ れ る 効 果
観光への効果 アスパム前横切りの印象をやわらげる。 高いモニュメント性 青森ベイブリッジとの調和・演出 地域景観への貢献	アスパムのイメージ向上 新しいランドマークとなる。 周辺環境と景観を創造する。 港湾地区への人の流れができる。 新しい観光ポイントとなる。 話題を提供する。

3. アスパム前ゲートタワーのデザインについて

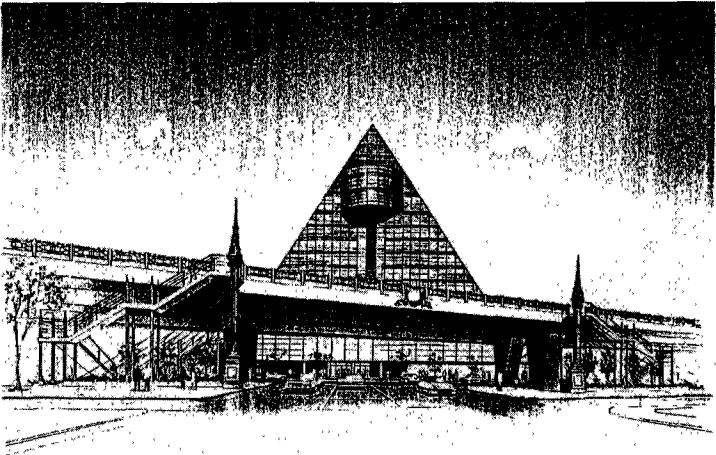
①アスパム玄関口としての表情を演出しながら、ストーリー感を感じさせるデザインでアスパム前横切りの悪印象を和らげる。

②アスパムや橋との調和の中に、一日という時間を太陽の光とその影で刻む柱時計のように、ここを訪れる人の時間と青森港から船出する船や寄港する船の時間をも刻むイメージでクラシカルな支柱デザインとした。

③夜には照明が入りゲートタ

ワーは暖かい光りで包まれ、まるで街を歩く人々の為の灯台のようにも見え、またアスパムの色とりどりの表情を飾り、斜張橋と重なって人々の心と視線を誘う。

④ゲート中央のモニュメントは、この時間という歴史と伝統、そして文化を象徴するものとして考えた。



5. まとめ

青森港周辺は、市街地にありながら多くの自然に、景観に恵まれておりますが、このゲートタワーの完成の暁には、集う人々にストーリーを感じさせ、光りの演出によるアスパムの様々な表情とマッチして、アスパムのイメージの向上と話題を提供する新しい観光ポイントとなることと思います。

なお このデザインは空間創造研究所で行ったもので、現在設計を進めるにあたって細部にわたる助言をいただいている事にお礼申し上げます。